

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 3月 30日

事業所名 はつかぜ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	50%	50%	2019年度に事務スペース、倉庫機能相談室などを別スペースに移動し、支援スペースを拡張した。	新型コロナウイルス予防の為、密を避ける必要があり、もう少し広いスペースが必要だと認識している。移転も含め現在検討中である。
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	基準よりは多い職員配置をしており、ほぼマンツーマン支援をしている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	50%	50%	出来る限りの必要な配慮をしているが、車いす用トイレが無い。現在の場所では設置が不可能である。	車いす用トイレがないのが課題である。車いす用トイレの設置に関しては、根本的に事業所の場所を変更をしないと設置が不可能な為、検討を続けている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	常に全スタッフと話し合いながら業務改善に努めている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	毎年行うアンケート、保護者会、個別懇談会などを通して保護者意向を把握している。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	毎年ホームページで公開している。2020年度の評価の結果は7月の保護者会でも報告した。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	30%	70%	現在は行っていない。	必要であれば実施する。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	事業所内研修を年6回実施している。また外部の研修や研究会に積極的に参加している。	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	基本的に6ヶ月に1回のモニタリングの懇談を行っている。今年度は新型コロナウイルス感染が落ち着いている時は対面での懇談を中心に、感染が拡大している時は電話での懇談を中心にモニタリングを行いニーズの把握に努めた。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	80%	0%	主に重症心身障がい児を対象とした事業所であり、標準化されたアセスメントツールはなく、独自の物も使用している。	アセスメントツールは内容が合う標準化されたものが見つかれば使用したい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	毎月のスタッフ会議で2か月先まで検討している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	様々なプログラムを提供しているが、幼児向け導入プログラムは月間プログラム、全員に毎日提供しているプログラムは週間プログラムにしている。重心児は毎回変わるプログラムより、少し継続する方が反応を引き出しやすいと思う。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	支援時間に合わせたプログラムを提供するようにしている。土曜日はヘアカットプログラムやPTプログラムを実施している。新型コロナウイルス感染症が落ち着いたらイベントプログラムも再開したい。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	個別の課題は支援計画に上げて随時実施している。集団での活動は毎日のプログラムで実践している。	
15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	毎日昼礼を行いその日の支援の打ち合わせや前日の申し送りを行っている。		

	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	70%	30%	個人支援記録や業務日誌に記載情報共有している。	送迎に出るスタッフも多く、終了時間が一定では無いので終了後の振り返りは個人支援記録や業務日誌への記載、翌日の昼礼での申し送りで行っている。また月1回のスタッフ会議でも検討している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	日々の支援は個人支援記録に記載している。またスタッフ会議での利用者情報共有や個別支援計画の振り返りにも活用している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	利用者全員6か月ごとのモニタリング、支援計画の見直しを行っている。モニタリングの際は毎月のスタッフ会議を通してスタッフ全員で見直しを行っている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	100%	0%	ガイドラインの基本活動に上がっているすべての活動を実施している。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	児童発達支援管理責任者が参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	学校のホームページや学校送迎時に行事予定や下校時間等を確認したり、保護者に学校からの連絡プリントのコピーを提供してもらったり、LINEや連絡帳でお知らせ頂いたりしている。	スケジュールに関しては実際は保護者からの情報提供がほとんどなので、学校とのこの部分の連携はもっと進んで欲しいと思っている。トラブル発生時などは適切に連絡を取り合えていると思う。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	100%	0%	医療的ケアの実施に関しては必ず主治医に指示書の記載をお願いしている。場合によっては主治医訪問することもある。また病院で実施するカンファレンスには積極的に参加している。	現在は来ていないが、主治医に直接電話で相談できる体制を構築していきたいという希望はある。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%	0%	現在はまだ引き継ぎが必要な利用者がいないが、あれば積極的に行いたい。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%	0%	卒後の生活介護施設への引き継ぎは希望があれば積極的に行っている。希望があればサポートブックを作成し、卒後に通われる生活介護事業所への引き継ぎになるよう準備する。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%	重症心身障がい児が主な対象者なので、保健所の研修に積極的に参加している。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	10%	90%	現在は行っていない。保護者のニーズがない。保護者からの要望があれば検討するが、感染予防やケガ予防の観点から必要性を感じない。	今後も行う予定はない。重症心身障がい児が主な対象者なので、体調管理の観点からも感染予防は最重要である為行えない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	100%	0%	はつかぜスタッフが一昨年度より箕面市の医療的ケア児等コーディネーターになったので、市の協議の場に参加した。また昨年4月から相談支援事業所を併設したので、自立支援協議会の相談支援部会や権利擁護部会に参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	送迎時に必ずその日の様子を保護者にお伝えしている。また連絡帳で体調、プログラムのときの反応など詳しくお伝えしている。モニタリングでは保護者とともに課題の確認をしている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っている	100%	0%	体調面のアセスメントや対処の方法、装具や制度、遊び方など様々な情報をお伝えしている。	

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約時に説明している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	6か月に1回のモニタリングの際は事業所や居宅での懇談、もしくは電話での懇談で、様々な相談を受けている。また送迎時も相談を受けることがある。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%	0%	年に2回定期的に保護者会を開催している。今年度は7月に1回目を開催し、2回目は3月に予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の為に中止になった。	保護者アンケートからも要望があると感じており、出来るだけ計画通り実施したいと思っている。コロナ感染症の状況が改善しなければWEBでの開催を検討しなければいけないと認識している。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	細かい要望などもしっかり受け止めるよう努力していきたいと思っている。保護者には何でもお気づきのことは伝えて頂きたいとお伝えしている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	毎月1回ホームページのブログという形で1か月間の活動報告をしている。また次月の活動予定も発信している。またブログの更新情報を連絡帳に記している。	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	写真の掲載や支援計画の取り扱いについて保護者と書面で確認している。	今後も細心の注意を払い取り組んでいく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	支援の際は子どもの意思を感じ、寄り添う支援を心掛けている。またモニタリングの際には十分な時間をかけて保護者と懇談し、意思の疎通を図っている。	
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	30%	70%	新型コロナ禍にあり、地域支援は難しい状況で昨年度に続き今年度もコンサート等は実施出来ていない。地域のボランティアさんのご協力でお芋堀りだけは何とか実施できた。	新型コロナの感染状況が落ち着いたら、事業所として地域交流の行事などを再開したいと思っている。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%	マニュアルは作成しており、保護者にお配りしている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	毎年火災避難訓練を消防署の協力を得て行っていたが、今年度はコロナ対策の為、事業所単独で地震避難訓練を行った。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	毎年外部研修にも積極的に参加している。また毎年事業所内研修を行っており、今年度も3月に実施した。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	身体拘束の同意書を交わし、支援計画にも記載している。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	現在医師の指示が必要な食物アレルギーがある利用者はいない。	医師の指示書があれば、指示通りの対応をする。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	ヒヤリハットは積極的に報告されており、毎月の会議で報告、対応策の検討、改善を図っている。また年度ごとに集計を行い、傾向と対策を会議で話し合っている。		